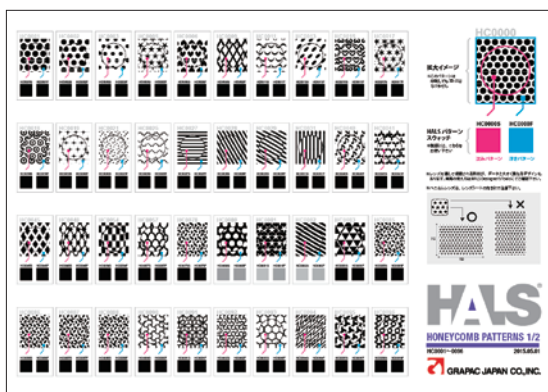


## HALSバックパターンの使い方

①デザイン・データ制作はAdobe Illustratorで行います。

HALSバックパターンはAdobe Illustrator CS5形式で保存しています。  
出力環境に適したバージョンで作業することを推奨します。

②パターンデータ「SQ00XX\_SQ00XX.ai」もしくは「HC00XX\_HC00XX.ai」を開きます。



HALSパターンは  
スウォッチに登録されています。

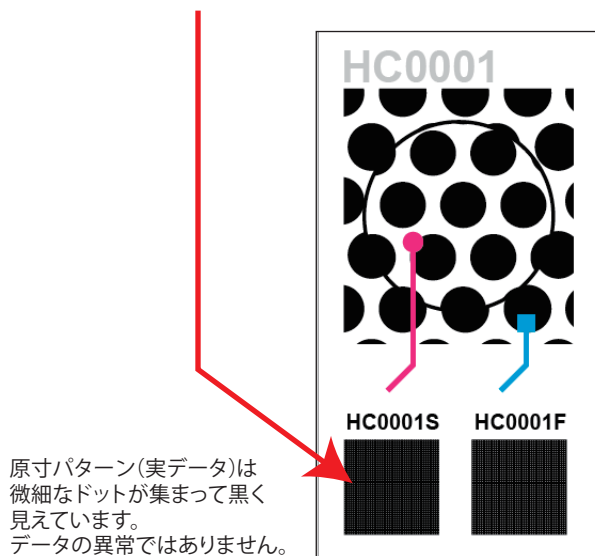
③Grapac Master「Designer's Tools」(印刷見本)を参考に、使用するパターンを決めます。

レンズを通して視認される形状が、スウォッチの見た目と大きく異なるパターン(デザイン)もあります。  
必ずDesigner's Toolsにて印刷見本をご確認ください。



パターン名をご確認ください

④スウォッチが適応されている矩形をコピーして、製版中のドキュメントにペーストします。  
HALSバックパターンのスウォッチが読み込まれます。



原寸パターン(実データ)は  
微細なドットが集まって黒く  
見えています。  
データの異常ではありません。

### 拡大イメージ

※このパターンは  
印刷しても3Dには  
なりません

### HALS パターン スウォッチ

※製版には、こちらを  
お使い下さい

### ご注意

- HALSバックパターンを流し込んだ後にオブジェクトの変形処理(拡大・縮小、回転等)はしないでください。立体効果が失われます。
- HALSバックパターンデータは2400dpi以上(推奨4000dpi以上)の解像度でのCTP出力を前提で作成されています。パターンは微小なので出力解像度が低いとドットの形状がぼやけてしまいます。
- 印刷に進む前にフィルムやCTP出力にレンズシートを乗せて実際のイメージを確認することを推奨します。
- ハニカム配列のパターンについては、レンズの向き(縦/横)が有りますのでご注意ください。  
(スウォッチデータは720×512mmのレンズシートを横置きで使用することを想定しています。)

⑤3Dパターンにしたい背景やオブジェクトの塗りに  
パターンスウォッチを適応してください。